

無住軒三百箇條

下

ヲ多  
645  
3



門 79  
義  
卷



- 二 石版の中神と口行
- 三 海次と平らむ
- 四 桂系海次と海次石
- 五 程高屋にはとて二と大 此座師の自余と夫と
- 六 麻のむらりの事
- 七 程高屋のむらりの事
- 八 長石の麻のむらりの事
- 九 程高屋の平らむ
- 十 繪巻のむらりの事

十一 二幅一針は幅一針五幅一針万事此法有八幅也寸之支  
 十二 墨法表のし能法寸る之支  
 十三 松原と云掛物と云支  
 十四 高の障補と云支  
 十五 墨法乃余之支  
 十六 墨海紙乃内つ包花と云支  
 十七 墨法乃内つ包花と云支  
 十八 墨法乃内つ包花と云支  
 十九 墨法乃内つ包花と云支  
 二十 墨法乃内つ包花と云支

二十一 筆漏の元紙更紙と云支  
 二十二 細口の元紙入の持物と云支  
 二十三 口元紙入の持物と云支  
 二十四 筆漏の元紙更紙と云支  
 二十五 筆漏の元紙更紙と云支  
 二十六 筆漏の元紙更紙と云支  
 二十七 筆漏の元紙更紙と云支  
 二十八 筆漏の元紙更紙と云支  
 二十九 筆漏の元紙更紙と云支  
 三十 筆漏の元紙更紙と云支  
 三十一 筆漏の元紙更紙と云支  
 三十二 筆漏の元紙更紙と云支  
 三十三 筆漏の元紙更紙と云支  
 三十四 筆漏の元紙更紙と云支  
 三十五 筆漏の元紙更紙と云支  
 三十六 筆漏の元紙更紙と云支  
 三十七 筆漏の元紙更紙と云支  
 三十八 筆漏の元紙更紙と云支  
 三十九 筆漏の元紙更紙と云支  
 四十 筆漏の元紙更紙と云支  
 四十一 筆漏の元紙更紙と云支  
 四十二 筆漏の元紙更紙と云支  
 四十三 筆漏の元紙更紙と云支  
 四十四 筆漏の元紙更紙と云支  
 四十五 筆漏の元紙更紙と云支  
 四十六 筆漏の元紙更紙と云支  
 四十七 筆漏の元紙更紙と云支  
 四十八 筆漏の元紙更紙と云支  
 四十九 筆漏の元紙更紙と云支  
 五十 筆漏の元紙更紙と云支

三三 園が裏の月見亭に御座のむねあり

三二 金所より後方の内所亭より侍し事

三一 暮らうとて庭板をあらり

三〇 清い庭を眺む

二九 庭に花入好むも風美人と想ふはさかしく

二八 掛ぬ花入庭より侍まの侍細格し事

二七 月の夜庭掛くくらくたると侍し事

二六 庭に花入好むも又花入好む事

二五 庭に花入好むも侍格に花入好むも掛よの侍し事

二四 金所より一人の侍格をあらり事

二三 西の方の侍格をあらり事

二二 伊豆の侍格をあらり事

二一 雪中月の夜の侍格をあらり事

二〇 池の夜の侍格をあらり事

一九 夜の侍格をあらり事

一八 夜庭の園の侍格をあらり事

一七 夕の侍格をあらり事

一六 侍格をあらり事

一五 侍格をあらり事

一四 侍格をあらり事

一三 侍格をあらり事

一二 侍格をあらり事

辛五 自在しくおぼゆる

辛六 草をたたくとたたくとたたくとたたく

辛七 不将に余は帰る

辛八 草子の多漏るる

辛九 存命の格とる

辛十 草の多漏るる

辛十一 草の多漏るる

辛十二 草の多漏るる

辛十三 草の多漏るる

辛十四 草の多漏るる

辛十五 諸道も余の行をたたく

辛十六 余の行をたたく

辛十七 口切にたたく

辛十八 草の多漏るる

辛十九 草の多漏るる

辛二十 草の多漏るる

辛二十一 草の多漏るる

辛二十二 草の多漏るる

辛二十三 草の多漏るる

辛二十四 草の多漏るる

辛二十五 草の多漏るる

辛二十六 草の多漏るる

七六 座敷の三つ軸を道に置く事

七五 所帯の事

七四 茶入の事

七三 茶入の儀

七十二 茶入の儀

七十一 茶入の儀

七十 茶入の儀

六十九 茶入の儀

六十八 茶入の儀

六十七 茶入の儀

六十六 茶入の儀

六五 一室の事

六四 真乃の事

六三 星海の事

六二 紹路の事

六一 星海の事

六十 星海の事

五十九 星海の事

五十八 星海の事

五十七 一室の事

五十六 名物の事

五十五 星海の事

尖 中次文紙之事

九 墨跡文紙之事

百 海老川掛紙跡之事

二百箇條下巻

之佐抄

一 海老川掛紙之事

海老川掛紙之事  
乃人の海老川掛紙之事  
先道師と稱ふは海老川掛紙之事  
しもの相と云ふは海老川掛紙之事  
作と云ふは海老川掛紙之事

二 石版と少細と白紙と

石版とは白紙と少細とは  
ちやうど紙と云ふは海老川掛紙之事

仙の海一海ありとて石橋は角三々を橋は行て中とあり又とあり又と角三  
た石橋もも入る角一方を形とてとては行也

三 海攻の事と石橋の事

海攻の事とて用ひては中より入り向の事あり向の事  
腰掛の向を石橋より向見舟掛入りて見舟合をてあり  
あつたをたててとて用ひては二つは舟ひくこととありて  
二つとありては舟の事と格別なり海攻舟と舟の事とあり  
ありあり

四 榎木海攻の事と石橋の事

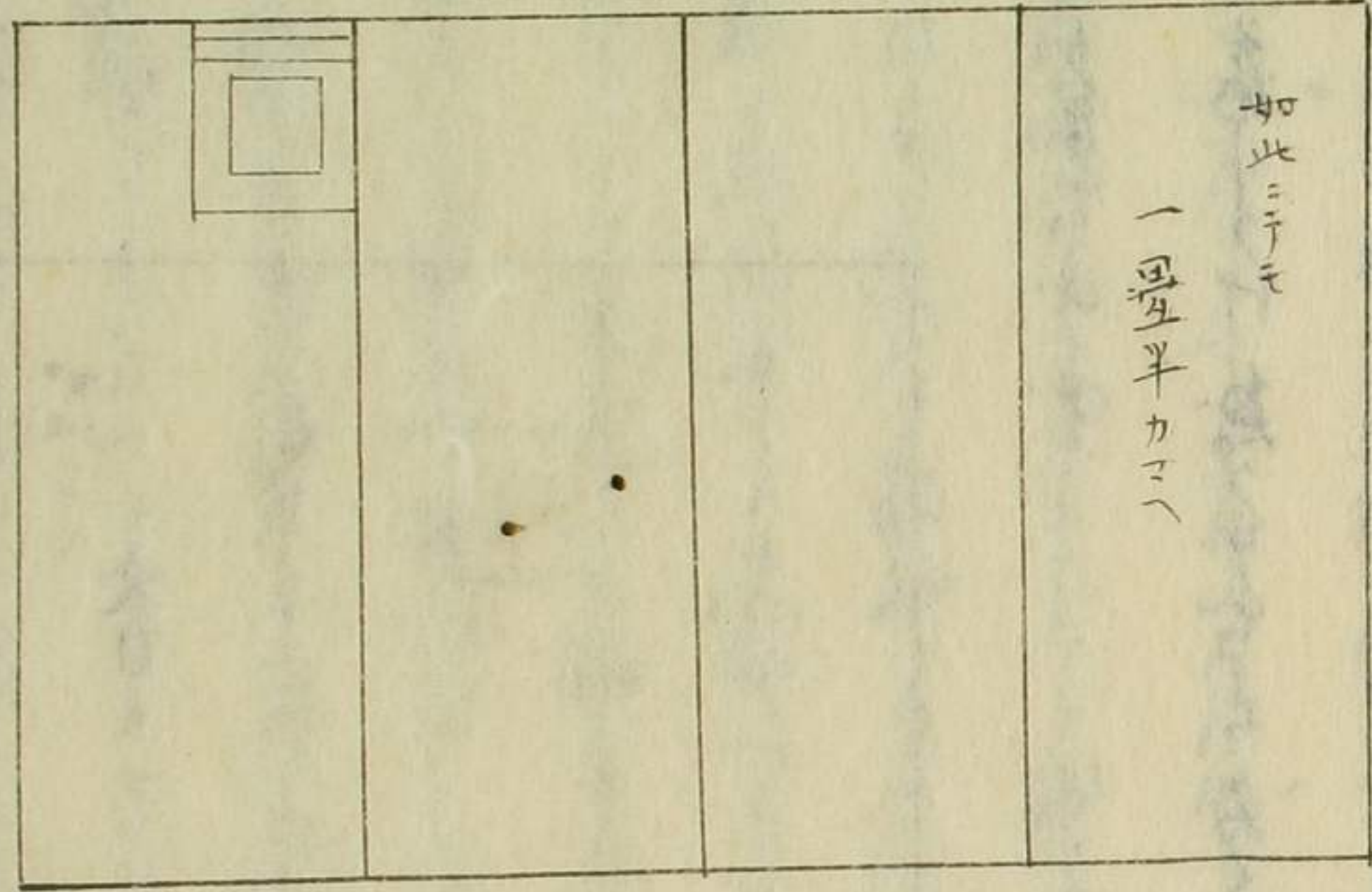
榎木海攻の事とて石橋の事とありて石橋の事とありて  
石橋の事とありて石橋の事とありて石橋の事とありて

石橋の事とありて

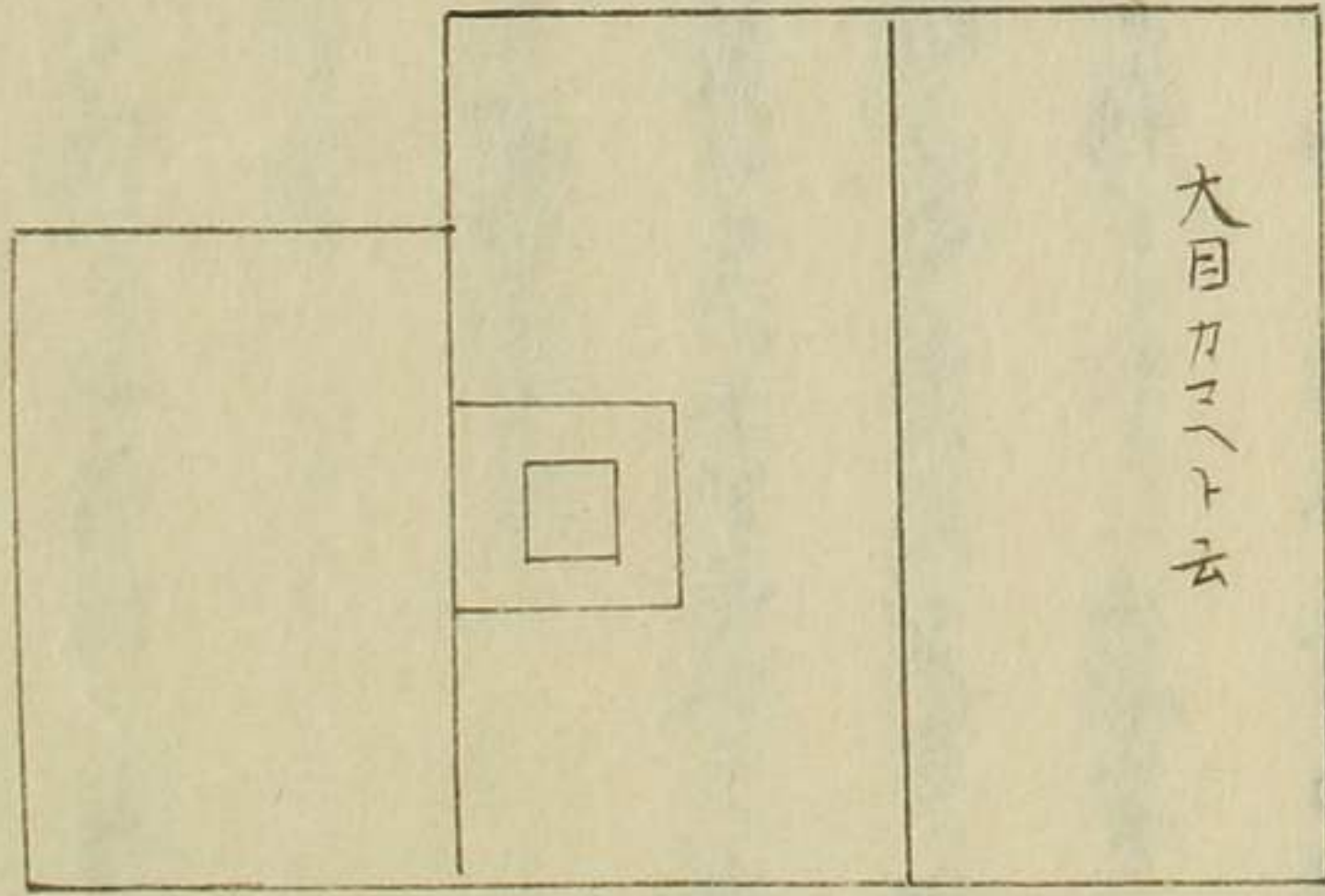
五 榎木海攻の事と石橋の事

榎木海攻の事とありて石橋の事とありて石橋の事とありて  
石橋の事とありて石橋の事とありて石橋の事とありて  
石橋の事とありて石橋の事とありて石橋の事とありて  
石橋の事とありて石橋の事とありて石橋の事とありて  
石橋の事とありて石橋の事とありて石橋の事とありて

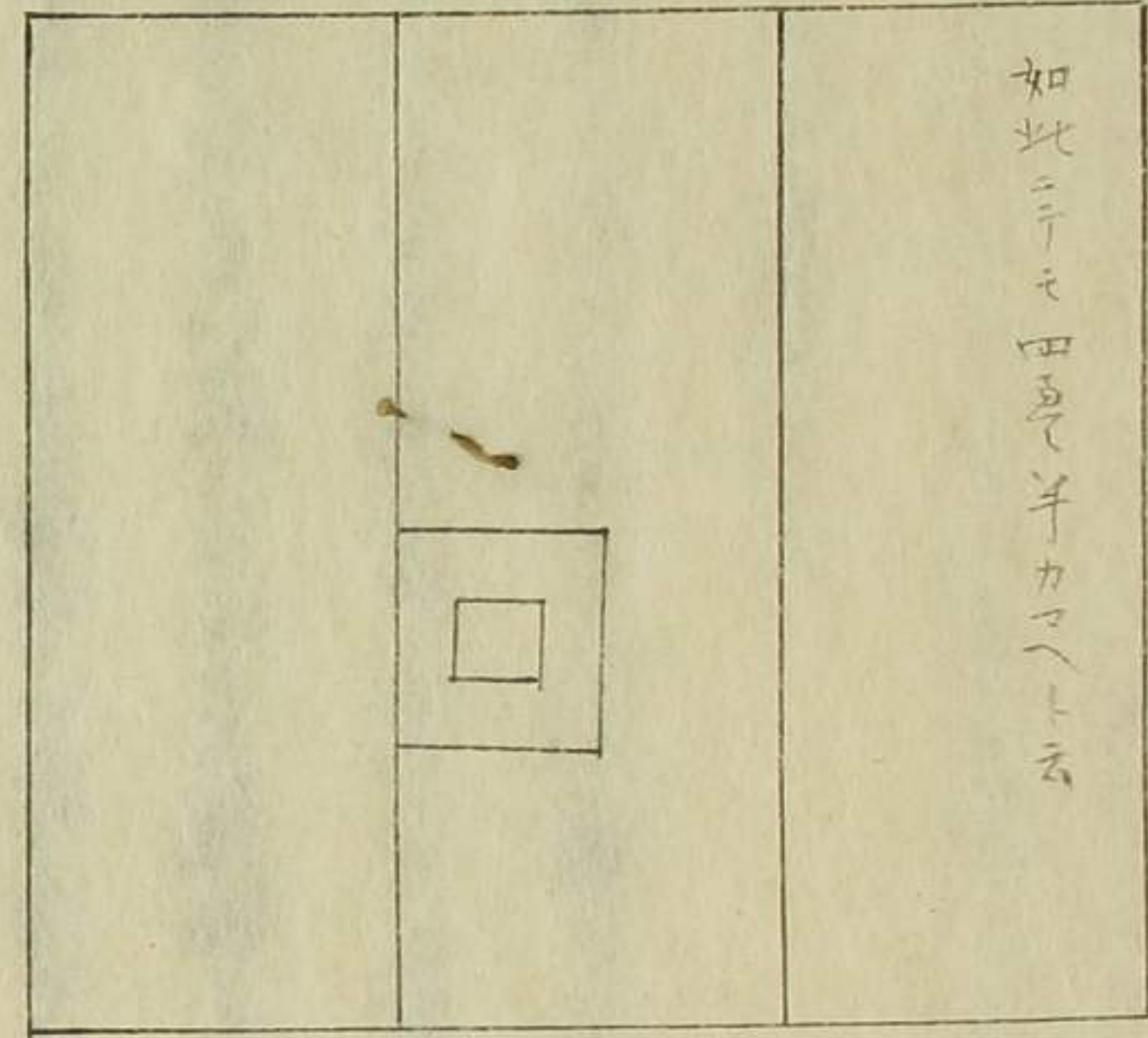




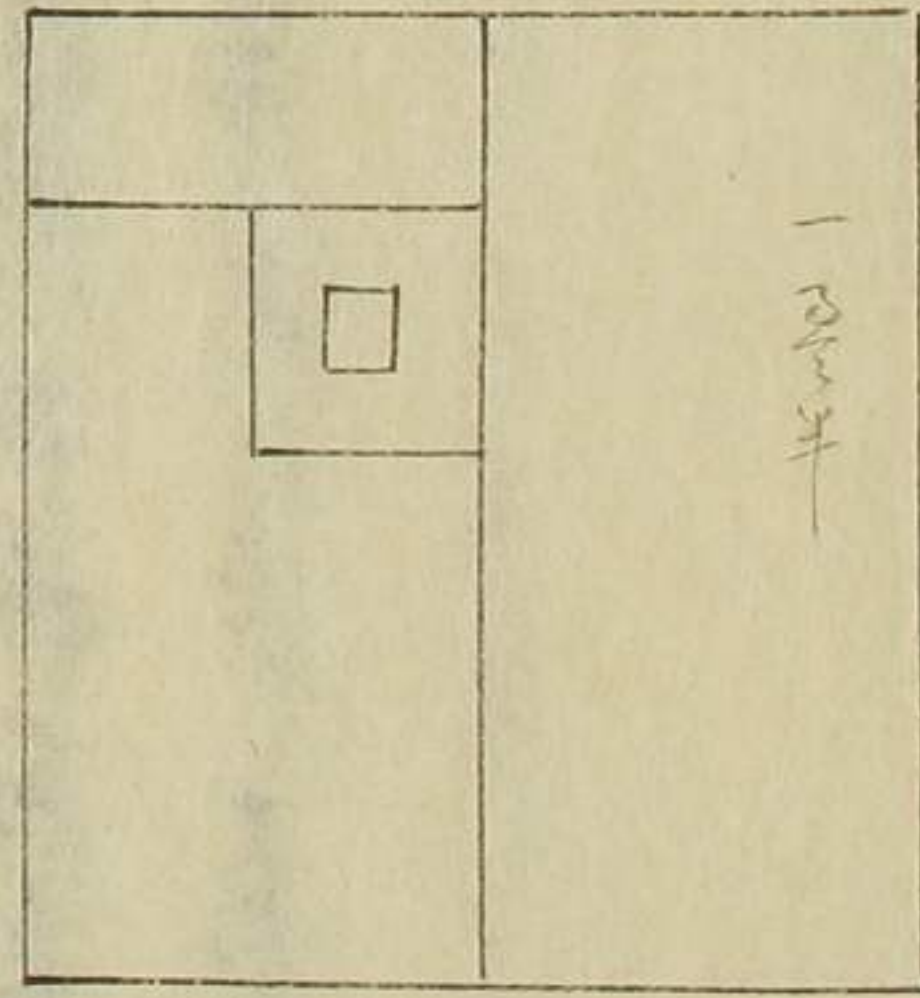
如此ニテモ  
一 四半カマヘ



大目カマヘト云



如此ニテモ 四半カマヘト云



一 四半





是の御意也やまの御心はけは度くは振返るゝまの御心  
 経は多きものなり

十四 真の體持終る事

一 一よりおしよる事

十五 聖徳の心をなす事

むかしは油おしよるを軸おしよる油の心をなす事  
 くらゐも御心の御心の心をなす事  
 先人の心をなす事  
 まの心をなす事  
 まの心をなす事  
 まの心をなす事  
 まの心をなす事  
 まの心をなす事

十六 聖徳の心をなす事

十七 聖徳の心をなす事

修る事

十八 聖徳の心をなす事

右の御意也やまの御心はけは度くは振返るゝまの御心  
 経は多きものなり

一 聖徳の心をなす事

二 聖徳の心をなす事

三 聖徳の心をなす事

四 聖徳の心をなす事

五 聖徳の心をなす事

六 聖徳の心をなす事

一 花の色は花をさしむるゝのゝ。載せしむり十口流し。庭のさしたる  
くはまゝのゝ。

九 花板とゆふ事

花板の内層板のあり花入のゆふ事

十 花乃花入り。重又花のゆふ事

ゆふ事とゆふ事。重又花のゆふ事。庭のさしたるのゝ。重又花のゆふ事。庭のさしたるのゝ。

十一 花乃花入り。重又花のゆふ事

花乃花入り。重又花のゆふ事。庭のさしたるのゝ。重又花のゆふ事。庭のさしたるのゝ。

十二 花乃花入り。重又花のゆふ事

花乃花入り。重又花のゆふ事。庭のさしたるのゝ。重又花のゆふ事。庭のさしたるのゝ。

十三 花乃花入り。重又花のゆふ事

花乃花入り。重又花のゆふ事。庭のさしたるのゝ。重又花のゆふ事。庭のさしたるのゝ。

十四 花乃花入り。重又花のゆふ事

花乃花入り。重又花のゆふ事。庭のさしたるのゝ。重又花のゆふ事。庭のさしたるのゝ。

之方一斗中にて能く御らへる御ふりしをより能く也也此の又  
上へ長きと云ふ事

廿四 口唇中花入し白粉あり

白粉の中へ御入流しきくは御一申とつしまつちをりし入る能あり  
御葉ありし中流し見入御能く白粉ありきくは御也

廿五 華あまきし一斗御ふりし中

此を御能くしきくは御一申とつしまつちをりし入る能あり  
二色白粉の中へ白粉ありきくは御一申とつしまつちをりし入る能あり  
御入武口白粉ひりありし御一申とつしまつちをりし入る能あり

廿六

御能くしきくは御一申とつしまつちをりし入る能あり  
御能くしきくは御一申とつしまつちをりし入る能あり

廿七

御能くしきくは御一申とつしまつちをりし入る能あり  
御能くしきくは御一申とつしまつちをりし入る能あり

廿八

御能くしきくは御一申とつしまつちをりし入る能あり  
御能くしきくは御一申とつしまつちをりし入る能あり

廿九

御能くしきくは御一申とつしまつちをりし入る能あり  
御能くしきくは御一申とつしまつちをりし入る能あり

三十一  
 新新... 白... 白... 白...  
 塗紙と春と... 竹... 竹...  
 台別...

三十一  
 柄の... 柄の... 柄の...  
 柄の... 柄の... 柄の...  
 柄の... 柄の... 柄の...

三十一  
 柄の... 柄の... 柄の...  
 柄の... 柄の... 柄の...  
 柄の... 柄の... 柄の...

三十一  
 柄の... 柄の... 柄の...  
 柄の... 柄の... 柄の...  
 柄の... 柄の... 柄の...

きりぎりすの死に地は死の極も又うき世の産根と云ふ事  
なりて是も尋らばなりて目こころに也一なるあり

三五

山田のふたの文

清くはたけの何方なるも能く産るくこの世の子細をまなぶに  
何方なる死す方にも死す上座もいかに定むるは其の一なり定むるに  
又何方なるも活きたる世に生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり  
一麻の死入る方にも生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり

三六

美くはたけの何方なるも能く産るくこの世の子細をまなぶに  
又何方なる死す方にも死す上座もいかに定むるは其の一なり定むるに  
又何方なるも活きたる世に生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり  
一麻の死入る方にも生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり

是客を後記かくしてあり

三七

掛物を入る方にも生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり  
一麻の死入る方にも生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり  
又何方なる死す方にも死す上座もいかに定むるは其の一なり定むるに  
又何方なるも活きたる世に生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり  
一麻の死入る方にも生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり

三八

月の夜海掛るくこの世の子細をまなぶに  
一麻の死入る方にも生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり  
又何方なる死す方にも死す上座もいかに定むるは其の一なり定むるに  
又何方なるも活きたる世に生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり  
一麻の死入る方にも生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり

三九

麻の死入る方にも生れ入る物にまづ何れも何れと産るあり



床に掛あぐり又床のり代窓の意はりお打とすり花入と感さすり切  
の多さうとすり如切と改さしめ所程は病愈さうとすさる花りの打す  
ぬきとすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり  
とすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり

床に掛あぐり又床のり代窓の意はりお打とすり花入と感さすり切  
の多さうとすり如切と改さしめ所程は病愈さうとすさる花りの打す  
ぬきとすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり  
とすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり

三

金部の人を道りけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり  
他部の人を道りけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり  
ちりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり

三

金部の人を道りけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり  
他部の人を道りけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり  
ちりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり

金部の人を道りけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり  
他部の人を道りけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり  
ちりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり

四

金部の人を道りけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり  
他部の人を道りけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり  
ちりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすりけ切と改とすり

ありては御おしりの子が元とありてはさむくもなきをばんとし  
 ちしつゝのや

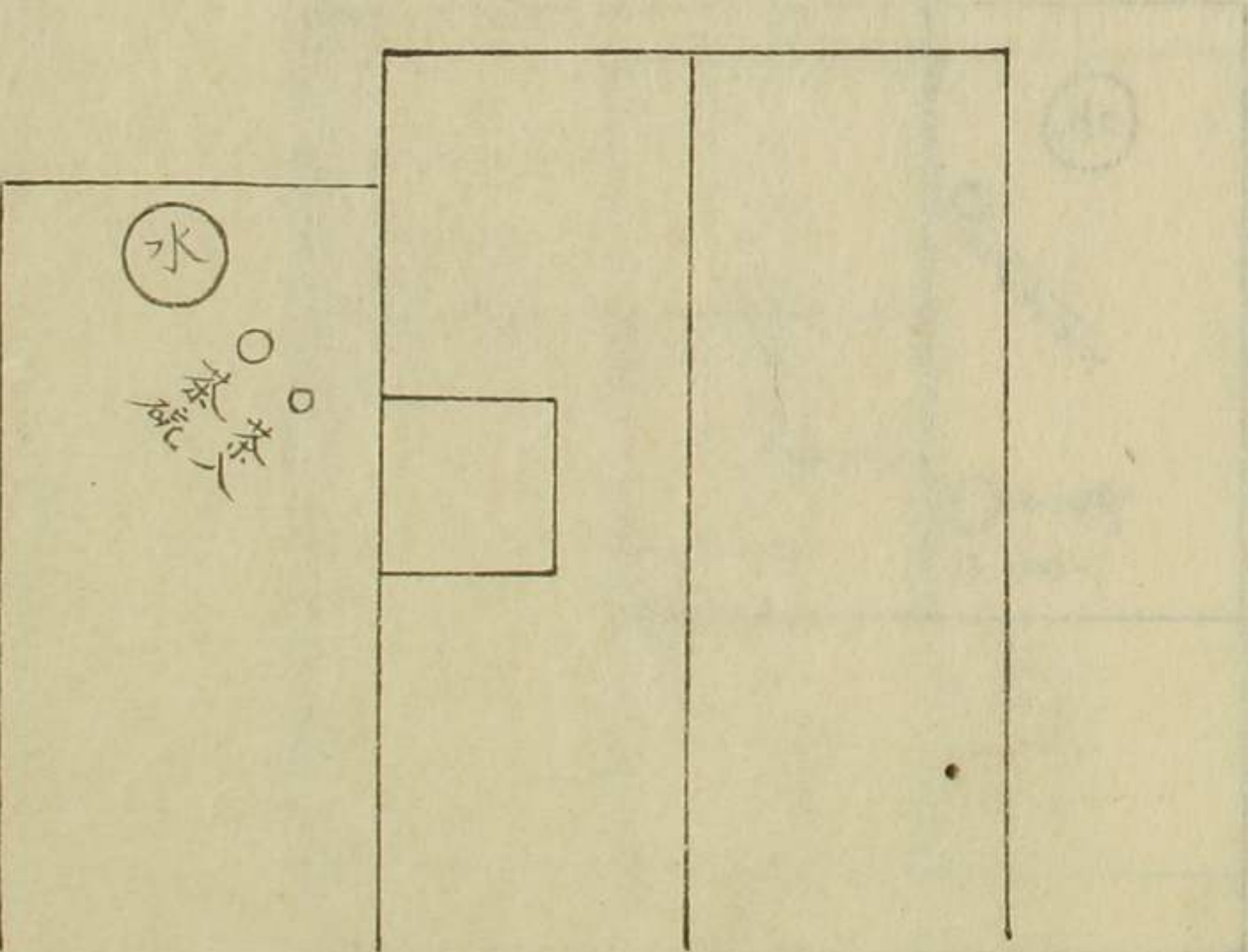
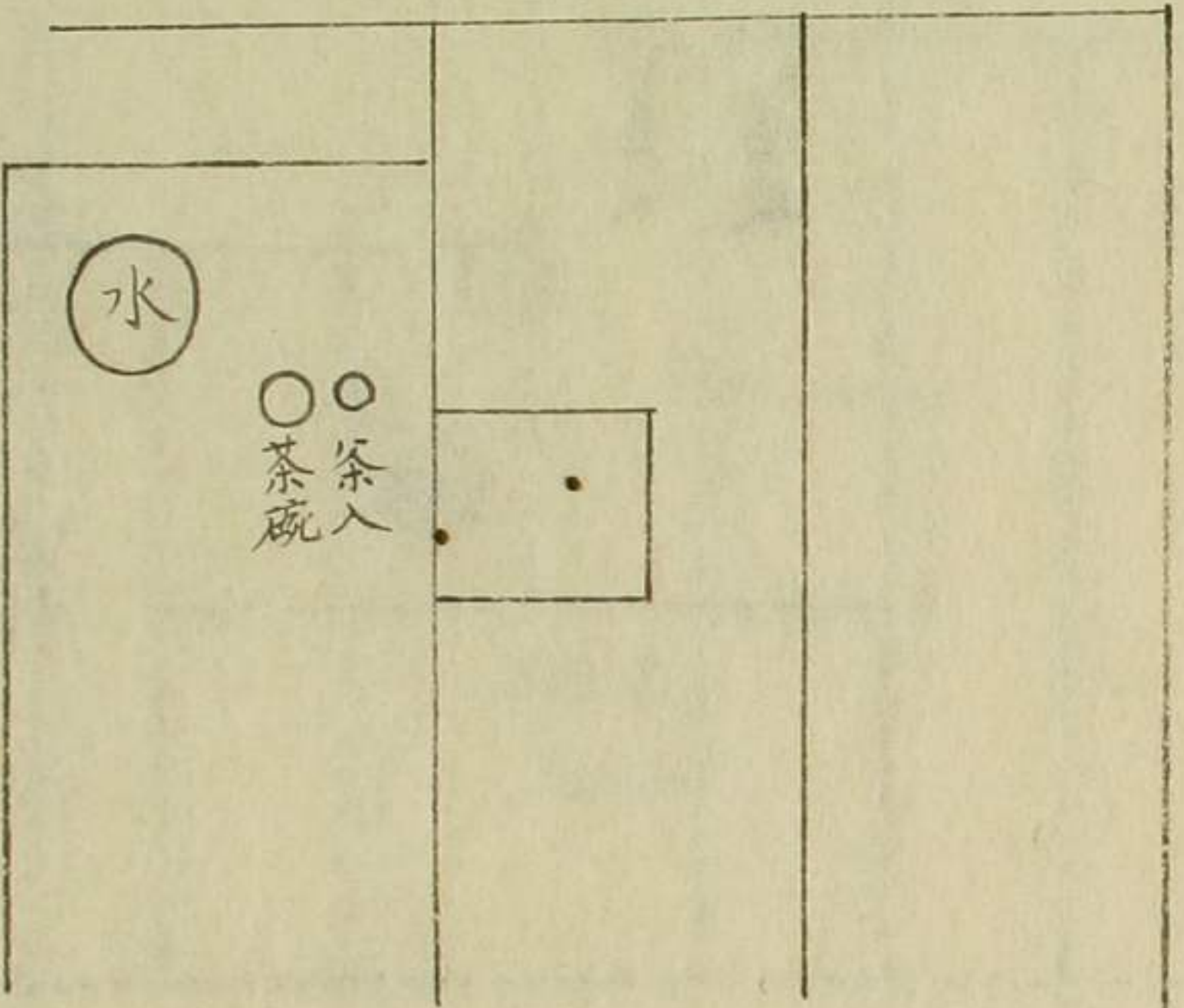
罫

物引夜合の事

あく夜合をさす同く解きまじは事と聴くさうはさのやれし因之は  
 出さす所ももろなきをばんとしつゝは物引く法をばんとし  
 一あつたきり部いれし自らさすつゝは不入りの其同門ありて  
 知しつゝはさす所ももろなきをばんとしつゝは物引く法をばんとし

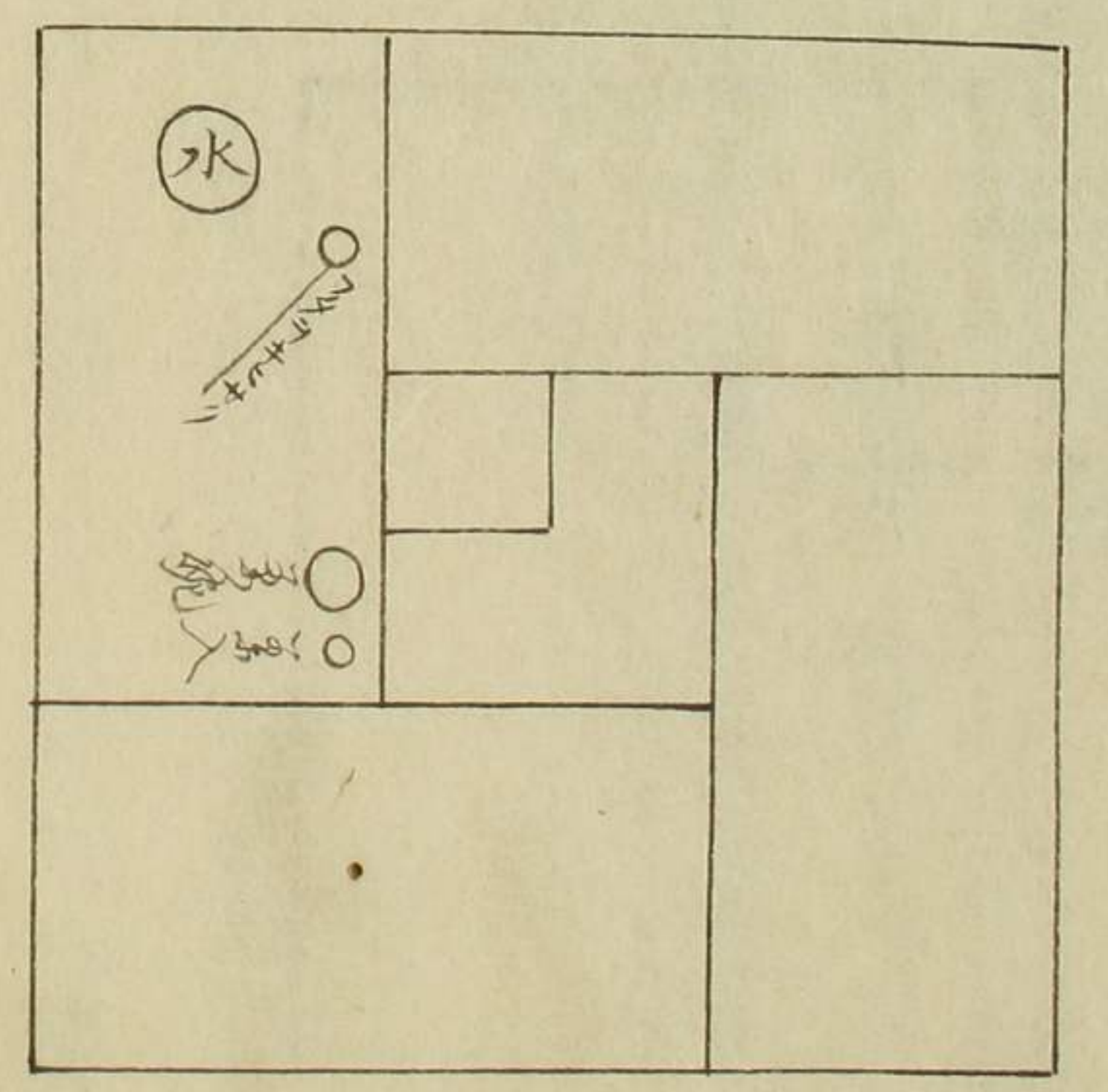
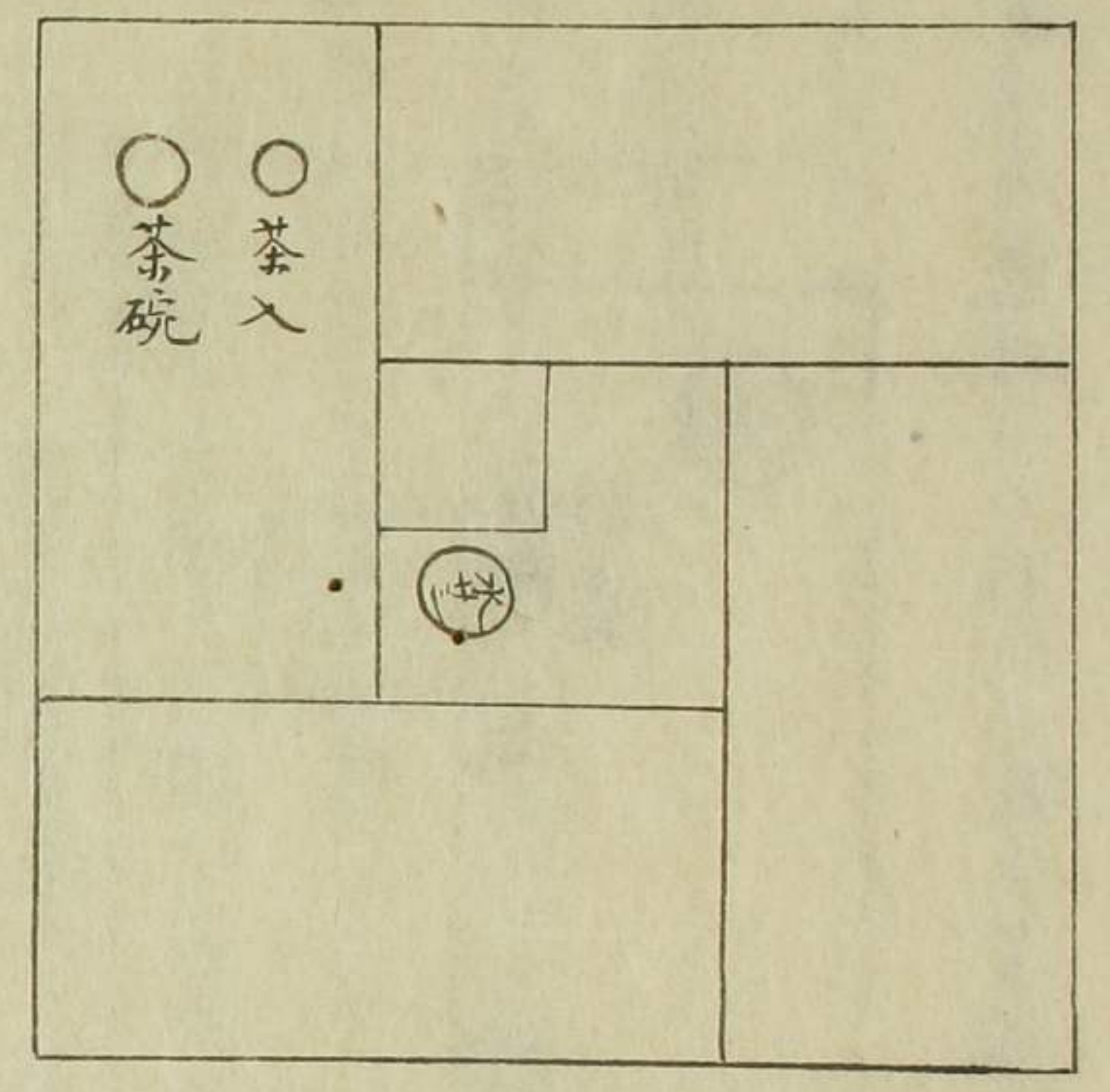
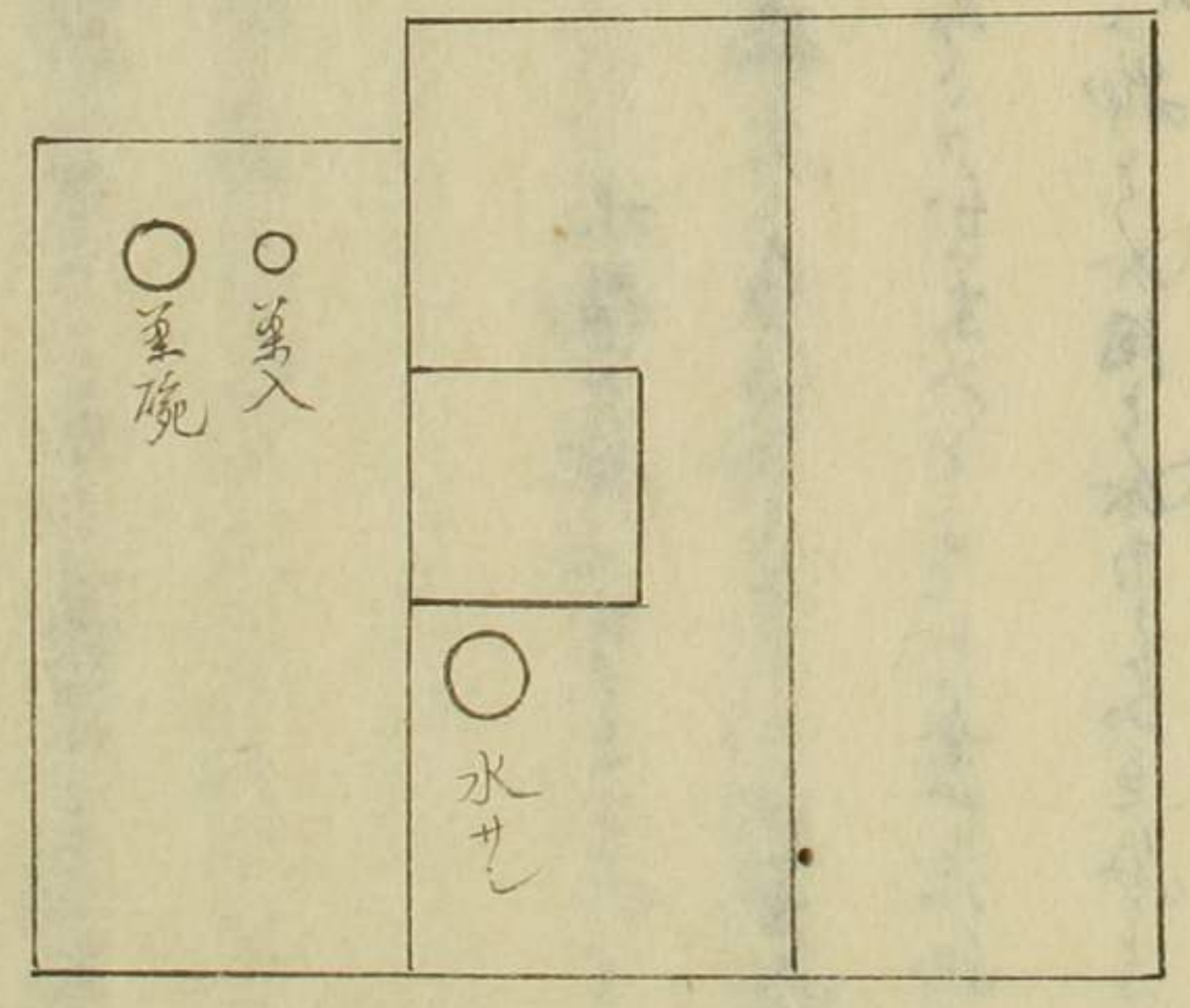
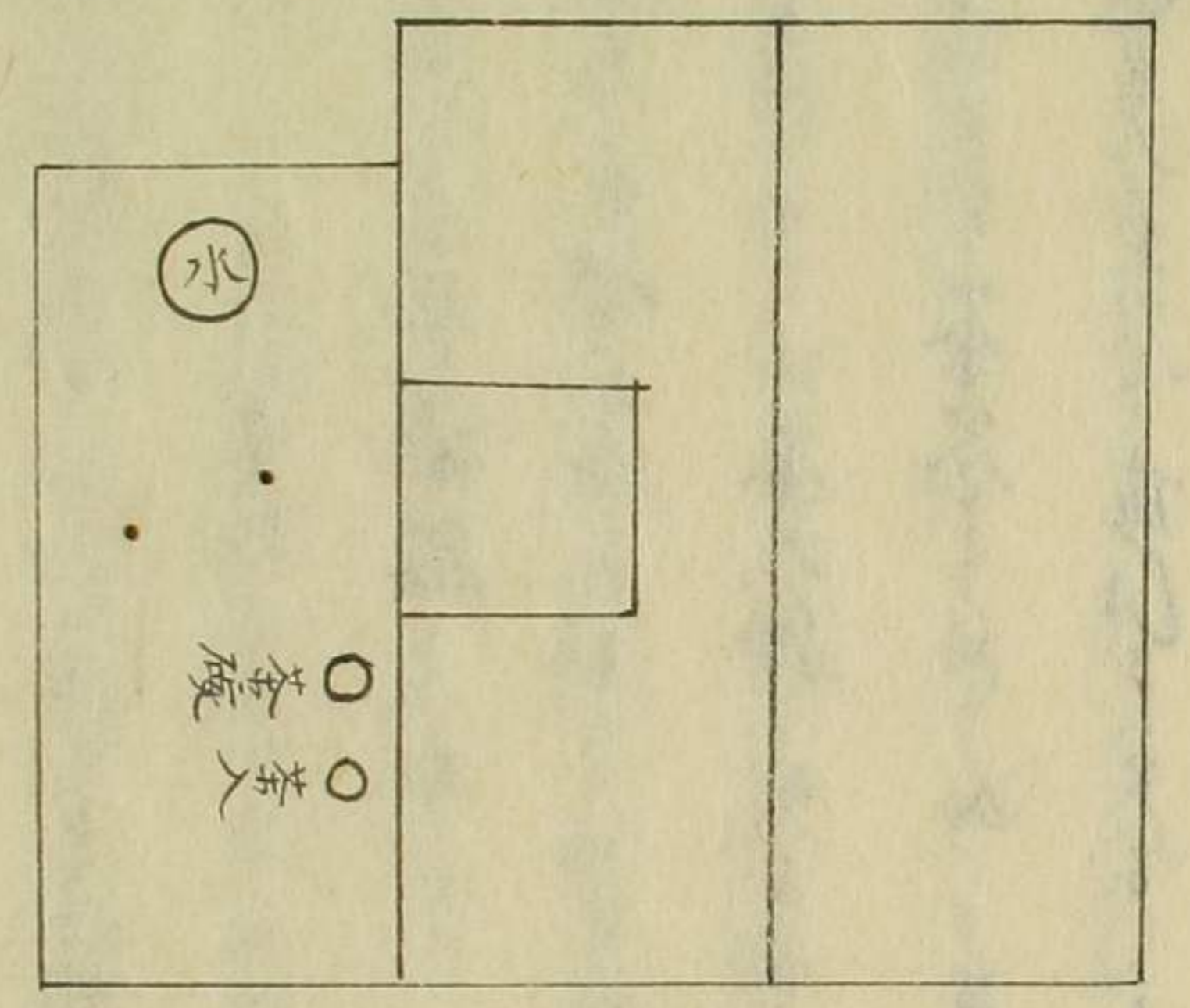
罫

夜合の別の重合しつゝ



四七

夜合く内茶入の事を白積とす  
夜合のときも茶入の事を白積とす又ハが縁、無之茶入のやうなること



取のし又またのー 二口也ー 茶入りて言とる茶の海へは相集りて  
 此常も若くはひと等茶の合を遠す一もりて又茶碗の茶もわくと  
 茶碗ふたり茶碗の事

茶碗と茶碗とをくひはくとの也茶碗の遠く一茶と茶碗のしとて茶又  
 としはくく一茶と茶碗のく一茶の茶碗のくく一茶と

茶の用と茶の用と

振る振りて茶の用と茶の用とをいふ一水指と茶碗とをいふ一茶入り  
 茶入り茶碗の用と茶の用とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ  
 茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ

茶の用と茶の用と

茶の用と茶の用とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ  
 右の茶の用と茶の用とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ

茶の用と茶の用と

茶の用と茶の用とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ  
 茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ

茶の用と茶の用と

茶の用と茶の用とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ  
 茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ一茶碗と茶碗とをいふ

能に上並相不な紙紙也——  
つと持上たためほくと有車——  
持上りてはのるをそり——  
つとくんとそり——  
自在とくんとそり——  
火の狼のそり持せも——  
まや他——

五三

自在のそり持せも——  
つと持上たためほくと有車——  
持上りてはのるをそり——  
つとくんとそり——  
自在とくんとそり——  
火の狼のそり持せも——  
まや他——

五三

自在のそり持せも——  
つと持上たためほくと有車——  
持上りてはのるをそり——  
つとくんとそり——  
自在とくんとそり——  
火の狼のそり持せも——  
まや他——

五三

自在のそり持せも——  
つと持上たためほくと有車——  
持上りてはのるをそり——  
つとくんとそり——  
自在とくんとそり——  
火の狼のそり持せも——  
まや他——

五三

いさぬとのいほのまはるるにの身こけのねに改まや正のまはるる  
ひらくまの用をく用をけりぬとせしね事短くや屏風のま  
いねが利改と申すはあはれまはるるに改まると申すはあはれ  
道にまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申す  
まはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申すはあ  
或一客あはるとまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改  
或一客あはるとまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改  
何のまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申す

七七

葉子の葉湯と申す

ひらくまの用をく用をけりぬとせしね事短くや屏風のま  
いねが利改と申すはあはれまはるるに改まると申すはあはれ  
道にまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申す  
まはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申すはあ  
或一客あはるとまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改  
或一客あはるとまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改  
何のまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申す

夫

秋の葉と枯ると申す

秋の葉と枯ると申す 口切 五篇 不時 葉子 西 夜合

風物 急然 急然 急然

口切の何のまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申すはあ  
又のまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申すはあ  
いねが利改と申すはあはれまはるるに改まると申すはあはれ  
不時の葉子のまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申す

葉子のまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申すはあ

夜合のまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申すはあ

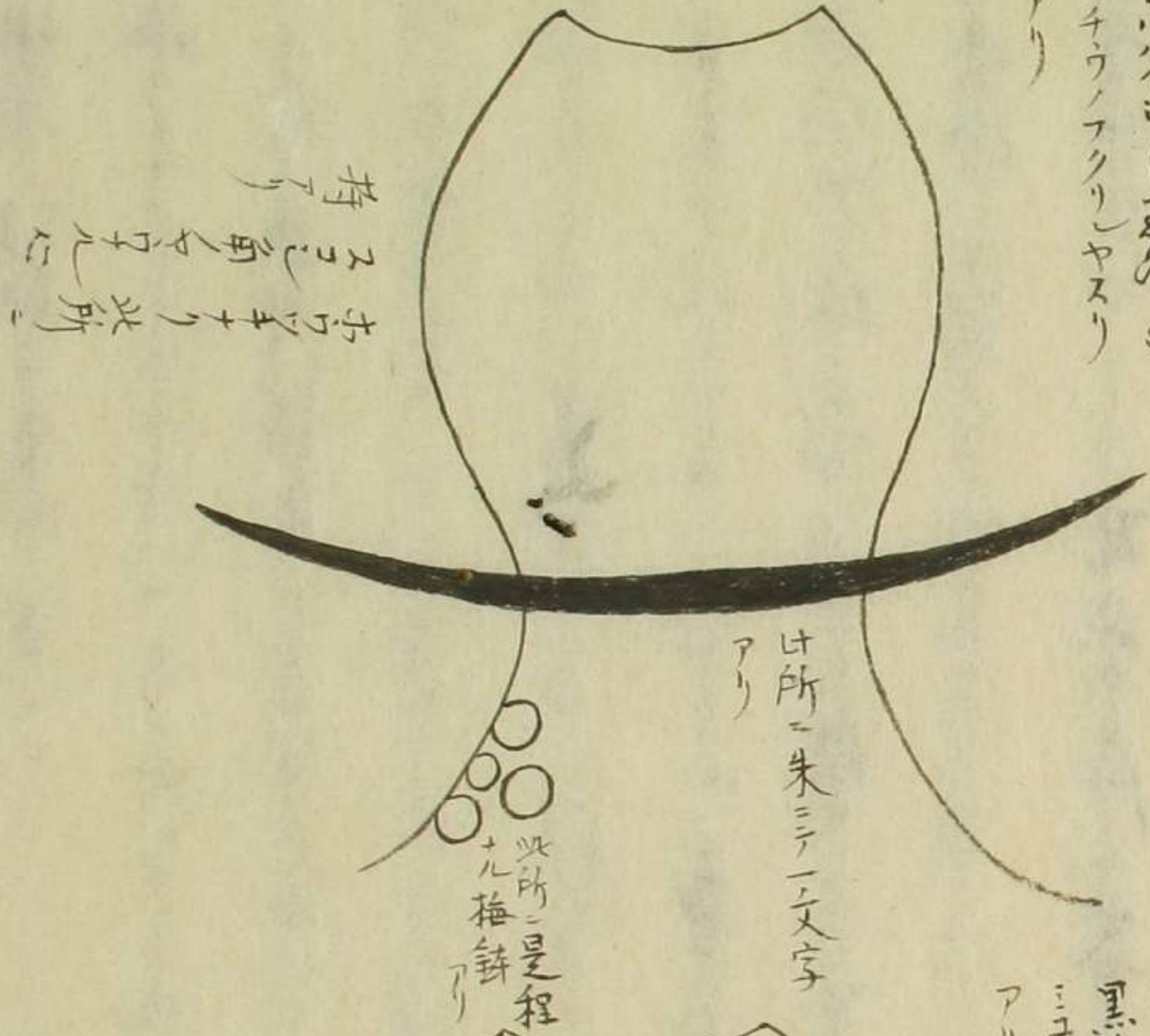
風物 急然 急然 急然

何のまはるるに改まると申すはあはれまはるるに改まると申すはあ

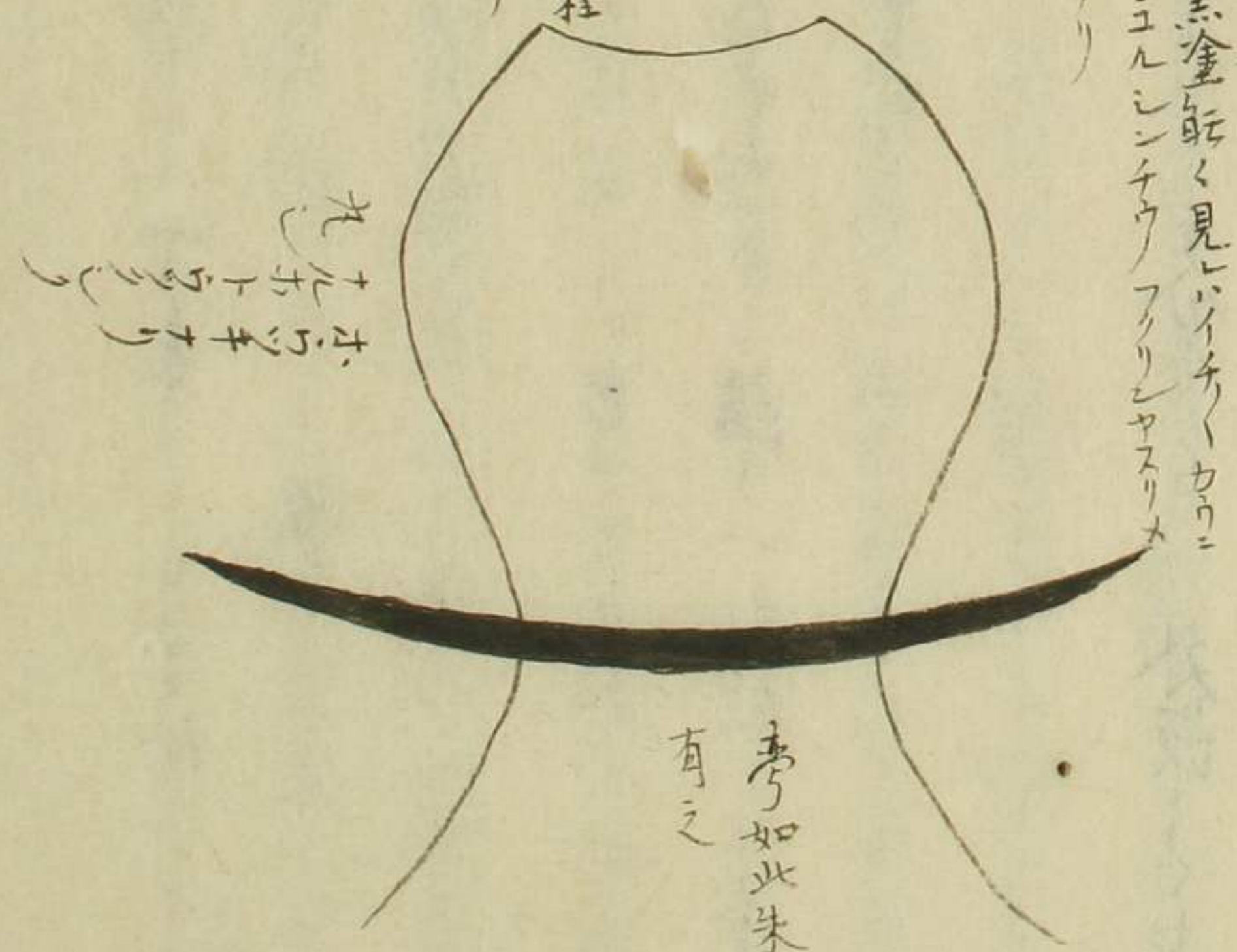


一、この花の葉は... 花の葉は... 花の葉は...  
 十、この花の葉は... 花の葉は... 花の葉は...  
 右、この花の葉は... 花の葉は... 花の葉は...  
 左、この花の葉は... 花の葉は... 花の葉は...  
 上、この花の葉は... 花の葉は... 花の葉は...  
 下、この花の葉は... 花の葉は... 花の葉は...

セツを  
 塗ハイシ...  
 シンチウ...  
 メアリ



百足量  
 黒金...  
 シンチウ...  
 メアリ



有之  
 有之  
 有之

梅アリ  
 スコ...  
 ハク...

此所ニ是程  
 ナル梅...  
 アリ

丸...  
 ナル...  
 ハク...



空 水掃し刃切しを合しませ

初めとてまゝのふりしり〜  
おぼろの浪よ刃切流しを合しませ

空 草のふしの夏

浪のふしの夏〜  
ふしの夏〜  
浪のふしの夏〜  
ふしの夏〜

空三

浪のふしの夏〜  
浪のふしの夏〜  
浪のふしの夏〜  
浪のふしの夏〜

たのふし〜

浪のふしの夏〜  
浪のふしの夏〜  
浪のふしの夏〜  
浪のふしの夏〜

空四

諸道り〜

浪のふしの夏〜  
浪のふしの夏〜  
浪のふしの夏〜  
浪のふしの夏〜

空五

金砂のふしの夏〜

余はよく余と云う村を度しよる者右衛門左衛門の口を以て指す自持  
と云ふは月半もくははるるのやあま合ては年之三三三 紙合とて我を  
一と云ふは月半もくははるるのやあま合ては年之三三三 紙合とて我を  
と云ふは月半もくははるるのやあま合ては年之三三三 紙合とて我を  
あるくは茶和物も有のやあま合ては年之三三三 紙合とて我を  
口和の所より事一  
口和の所より事一  
口和の所より事一  
口和の所より事一  
口和の所より事一  
口和の所より事一  
口和の所より事一  
口和の所より事一  
口和の所より事一  
口和の所より事一

諸君より人々の言を聞くと云ふは茶もさういふは人々の  
遠くを走しぬる者思ふは茶もさういふは人々の  
御しよるは茶もさういふは人々の  
まへもさういふは人々の  
つゝ御しよるは茶もさういふは人々の

茶巾系統の合り事一  
茶巾系統の合り事一  
茶巾系統の合り事一  
茶巾系統の合り事一  
茶巾系統の合り事一  
茶巾系統の合り事一  
茶巾系統の合り事一  
茶巾系統の合り事一  
茶巾系統の合り事一  
茶巾系統の合り事一

茶巾系統の合り事一



此の如き事... 貴人の御お侍の事

若人の御お侍の事... 御心遣の事

御心遣の事... 御心遣の事

御心遣の事... 御心遣の事



茶の儀の事  
昔の唐物は、其の儀和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、

茶の儀の事

昔の唐物は、其の儀和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、

茶の儀の事  
昔の唐物は、其の儀和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、

茶の儀の事  
昔の唐物は、其の儀和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、

茶の儀の事  
昔の唐物は、其の儀和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、

茶の儀の事  
昔の唐物は、其の儀和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、

茶の儀の事  
昔の唐物は、其の儀和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、  
純子の茶を用ひ、和あるを、  
和あるを、













